

---

# BAND物語

五十嵐もさお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BAND物語

### 【Nコード】

N6718A

### 【作者名】

五十嵐もさお

### 【あらすじ】

退屈な毎日、繰り返される日常。逃れようとしても逃れられない。ある日、転校生がやってきて、日常が変わった。まあ、よくある展開ですが読んでみて下さい。

## 第1話　転校生

誰もが思う。特に思春期の子供は、満たされない日々や退屈の続く日々。

これは、あるひとりの、いや、1組の物語ひとみ．．．．．

??? 『あゝ、学校ってなんてダルいんだろ．．．．．』  
彼は．．．．．

島根県立総山中学校　2年1組　荻原　春樹　14才

趣味：歌うこと（衝天！キャンダム、ナルカンZのテーマetc．．  
．）つまりうけ狙い。

特技：おもしろい事をする事  
将来の夢：特になし

この物語の主人公．．．．．  
彼も退屈な毎日にうんざりしていた。

ガラガラッ．．．

担任『じゃあ、ホームルームやるぞ。席につけ。』

（起立、礼、着席！！）

ガタガタッ．．．

また退屈な日がやってきた。あの、担任のこえを聞くといつもそう思う。

担任『出席とるぞ．．．．．』

担任が話をしているがおれはいつもほとんど聞いていない。

担任『えゝ、突然だが今日は転校生が来る。じゃあ、入れ。』

荻原『ふゝん．．．転校生か．．．まっ、どうでもいいや。』

転校生などどうでもいい．．．。



女子A『へえ、カッコイイ．．．。じゃあ、見に行くね！！』

ふん、バスケットかサッカーか．．．、おれはバスケットだし誘ってみようかな．．．。まあ、補欠なんだけどw

女子B『じゃあさ、趣味は．．．』

ガラガラッ

先生『席に付け！授業だぞ！！』

荻原（おれ、まだ、あいさつしかしてねえ．．．。）

これが道家とはじめてあった日だった。こんな、平穏な暮らしもあったんだなあ（回想）

まあ、今はとても多忙な毎日をおくってるんですが、これがその始まりなのです．．．。

第2話に続く．．．。t o b e なんちゃらかんちゃら．．．

## 第2話 よくある放課後

放課後．．．。

荻原（結局、ずっと女子の話攻めになすすべなく黙ってたら、放課後になってしまった．．．。でも、今度こそバスケット部に誘ってみよう！それぐらいしか話題ないし）

荻原『あのさ、道家君バスケット部見学に来ない？』

道家『ん？ああ．．．、じゃあ、行ってみようかな。』

荻原『分かった！じゃあ、行こう！！』

結構がんばって明るくふるまったぞ！！

体育館．．．。

キュツキュツ

バスケット部の何人かが先にきて練習していた。

荻原『おいゝす！！』

？？『おお、荻原か！！隣にいるのは．．．、分かった！！今日来た転校生か！？』

道家『道家秋正です。よろしく。』

？？『なんか、堅いなあ。タメなんだし、タメ口でいこうぜ！おれは佐藤八陸だ！！よろ！！！！ってか、バスケット部に興味があるん？』

道家『バスケット部か、サッカー部に入ろうかと思ってんだけど．．．。』

佐藤『サッカーなんてたまけりだろ？バスケット部はいれって！！』

えらそうにしてるけど、こいつは『ピボッツ』っていうバスケマンガに影響されてバスケット部に入った輩のひとりです。ちなみに荻原もW荻原『まあ、今決めなくてもいいだろ。まあ、部員が来る前に試合してみない？ここにいろやつらで！！』

佐藤『良いねえ！！よし、よろう！！！！』

そこにいる全員がやる気があったので、バスケットをする事になった。ちょうど8人なので4対4でやる事になった。

ちなみに、ジャンケンの結果Aチームはオレと道家君がいて、Bチームには佐藤がいた。

キュキュ……

ダムダム……

シュツ……サツ……

佐藤『道家！上手すぎやろ！！』

荻原『ああ、やばいなw』

結果は道化のワンマンショーに近かった。道化はバスケットは超人的に上手かった。

道家『ふう……。』

バシッ

佐藤は思いつき道家の肩をたたいた

佐藤『お前。スッゲーバスケット上手いな！これは即レギュラー決定だな！！』

荻原『たしかに、即レギュラーでもおかしくない上手さだな。バスケット部に絶対入った方がイイと思う！』

道家『うゝん。じゃあ、そうしようかな……。あつ、でも今日は用があるから帰らないと……。』

荻原『分かった。じゃあ、また明日！！』

道家『うん。』

道家はかなりバスケットが上手かった。これでおれのレギュラーはまた遠ざかった。まあ、別にレギュラーになりたいってわけじゃないんだけどwあれ、今日オレ目立って無いなあ……。wまあ、次は目立つだろう！多分w（楽天家）

第二話へ続く!っと思っよ





やべっ！！完璧に変態じゃん！！！！もう変態キャラじゃん！！！！！！学校での無難な毎日があゝ．．．

道家『荻原君か？』

荻原『あゝ、たまたま、なんか腹痛的ななんかで．．、あつ、ヤベツ！！なんかひどくなってきた．．．』

荻原（無難な日々終了．．）

??『お前が4日も休んだから、気になってついて来たんだろ？つたく、毎日おれんどこに来てただろ．．。学校にも良い友達がいるじゃねーか！！』

隣でしゃべってた人が適格な事をいった。

道家『そうか．．。ありがとう。でも、学校より楽しい事があつたから。』

荻原『へっ？学校より楽しい事？？』

道家『まあ、この「DA-KING」っていう人がバ．．．』

DA-KINGを省略してD-Kにします。ご了承下さい。m（

）m

D-k『ん？あつ！ヤベツ！時間がねえ！！まあ、これはチケットだから2人で見にこいよ！学生には、優しいから、今回はただで！！じゃあ、また！！！！！！』

ピュー

．．。風のように去って行った。

荻原『さっきの人はDA-KINGっていったけど』

道家『ああ、おれの親戚の人なんだけど、まあ、このチケットも余り物なんだけど．．。』

荻原『なんのチケットなん？』

道家『ん？んゝ、じゃあ、サプライズって事でその時まで秘密にしてく。』

サプライズって．．．何？？

道家『このチケットのイベントまで時間があるし。少し、河原で暇潰ししない？』

荻原『えっ、ああ．．．。』

なんかおれにだけなにも情報入ってきてない．．．。

河原．．．。

河原についた途端に道家がしゃべりはじめた。

道家『荻原君って、学校楽しい？』

いきなり真剣な話を仕始めた。

荻原『うーん、部活動はそれなりに楽しいし、友達と過ごす時間も楽しいけど、勉強は意味が分からん。とくに道德とか答えがあったりするから意味が分からん。先生が道德の教員本になんかここはこういう答えみたいなのがあって、それ見て、うわ．．．。みたいなのw』

道家『．．．！ははっ。』

少し驚いたあと、はじめて道家が笑ったトコを見た。

荻原『バスケの試合したときもなんか楽しそうじゃなかったっていうか、心ここになしっていうか。そんな感じだったけど、学校についてどう思ってたの？』

道家『学校なんてぶっちゃけつまらんし。ほんと、バスケよりしたい事があるんだ！！』

荻原『したいこと？』

道家『ああ、ずっとここ最近さっきのDA-KINGさんの家に行った！そこで、まあ、このチケットにもあるようにあっちが忙しかったんだけどおれが勝手に．．．ん？』

道家が目を見開いてる。

道家『やばい！時間を１時間くらい間違えてた！走らないと間に合わない！！』

荻原『ええっ?』

道家『急ごう!!』

そついうと全速力で目的地に向かった。

開始10分前・・・

D・K『あいつ、20分前にはくるとおもってたんだけど、来て無いなあ。』

??『おーい!あなたは遅刻したんだからてきぱき準備しちゃってよ!もう10分前なんだし!!ああ、今日は業界の人がくるのに・・・。ちゃんと前座をちゃんとやつちゃってね!!』

D・K『ういーす。(うるさいオチャンだな。にしても遅いな・・・。何してんだ?)』

その頃・・・。

道家『急げー!!』

荻原『はやっ!!』

さすがスーパースケをみしてくれたことがある。ずば抜けた体力だ!1kmをフルスロットルで走る!

道家『もうすぐだから!!がんばれ!!』

荻原『オツケい・・・。』

かれこれ2kmになろうというところでついた。

荻原『はあはあっ、こ・・・こ・・・か?』

道家『うん。はあっ、間に合ったっばいね。まあ、20分前にきてDA・KINGさんに本番前に会いたかったんだけど。まあ、入ろう!』

そこは、古い駅前の店だった。あれ?ここって何の店だっけ??この付近はあんま来ないから分からなかった。

道家『ちようど始つたところしいね。』

荻原『えっ、そうなん?』

ガガッ、ピー・・・

『例えば、どこかで戦争が起きてもワクワクする自分がいて、そんな自分が大嫌いで、何をしていいか分からなくなったら今日という日を思い出して下さい!じゃあ、やるぜ!!全身全霊を込めて!!  
!!』

耳に入ってきたD A - K I N Gさんのあの言葉をおれは一生忘れないと思う・・・。

第3話へ続けい!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6718a/>

---

BAND物語

2010年12月5日00時37分発行